

## ごあいさつ 会長 岡田 淳子（県立広島大学保健福祉学部）



令和6年1月1日に発生した能登半島地震により、犠牲になられた方々に心よりお悔やみを申し上げます。被災されたすべての方々に謹んでお見舞い申し上げますとともに、今もなお、避難生活が続いている皆様のご健康と、被災地の一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

地震のみならず、地球温暖化により世界中に「猛暑」「突風」「豪雨」といった異常気象が多発し、予想を超えた被害が発生しています。これらにより、生態系の変化や感染症などのリスクも高まり、国民への様々な心身に及ぼす影響が懸念され、健康を守るための対策が重要になっています。また、情報通信技術の発展や経済情勢の変化によって、国民の生活は豊かになる一方で、心の健康問題や生活習慣病の増加など、新たな健康課題が発生しています。

看護は人々の健康の維持・増進、疾病からの回復過程、および安らかな死への準備に関わる専門職であり、自然災害や現代生活による健康被害から国民を守るために、看護ケアを系統的に探究し発展させる責務があります。そして、看護研究によって得られた成果は、健康問題解決のために応用し、展開させて、国民の生活を支える看護に貢献しなければなりません。

本学会は、社会の変革に応じた看護の新たな知識と技術を創出して、その質を担保する責任を有し、健康に貢献することを目指しています。看護に携わる者が新しい着想や発想のもとに学術研究に取り組めるように支援してまいります。

今後も会員の皆様のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 第36回学術集会在島根で開催されました

### 実行委員長 島根大学： 津本 優子

第36回日本看護研究学会中国・四国地方会学術集會を、「未来社会に向かう看護研究」をメインテーマとし、令和6年3月17日、島根県出雲市の島根大学医学部キャンパスにて開催しました。

コロナ禍の影響により、本地方会学術集會もオンライン等による開催が続いてきましたが、今回は3大会ぶりに対面で開催することができました。参加者数は182名（会員117名、非会員25名、学生40名）で、そのうちオンライン参加は18名でした。コロナ禍で培ったICTを用いることによって、学術集會の新たな在り方に期待して臨みましたが、こちらは期待したほどの効果が得られず、広報の難しさ等の課題が残りました。演題は、口演が5群18演題、ポスターが4群32演題でした。それぞれに優秀演題賞セッションを設け、いずれも大学院生の方々が受賞されました。学部学生さん達も一般演題の中で堂々と発表されており、研究者の卵としても今後の活躍が期待されます。

教育講演は「シミュレーション教育におけるVR利用の可能性」（阿部幸恵先生）、特別講演は「AIの課題とこれからの研究」（津本周作先生）でした。いずれも「未来社会に向かう」先端技術を用いた今後の教育・研究において鍵となる内容がたくさんあり、興味深い講演でした。学術委員会企画の学術セミナーの「現象学入門：理論的背景から分析方法まで」（西村ユミ先生）も、多くの参加者が熱心に聴講していました。参加者の皆様が、講演者・発表者の生の声に集中し、活発に質疑応答している様子や、会場や廊下のあちらこちらで再開を喜び合う様子から、対面開催の意義を再確認することができました。

コロナ禍でも紙面上やオンライン等、形を変えて開催し続けてきたからこそ、本学術集會は再び対面での開催に至ることができたのだと思います。これまでの地方会学術集會を継続して開催してこられてきた先生方のご尽力、そして今回の開催に際して多大なご支援を頂いた多くの皆様に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

## 令和5年度事業報告

### 1. 会員数

令和5年8月1日時点 791名

### 2. 第36回学術集会開催

実行委員長：津本優子先生（島根大学）

日時：令和6年3月17日（日）

方法：対面・Webハイブリッド

テーマ：未来社会に向かう看護研究

演題：50演題

参加者：182名（うちWeb参加18名）

### 3. 令和5年度総会開催

日時：令和6年3月18日～3月27日

開催方法：会員情報管理システムを利用した議決権行使書による議決とする。

### 4. 委員会報告

#### 1) 運営委員会

(1) 第1回運営委員会会議 令和5年8月19日（土）

11:50～12:30, Zoom開催

①学術委員会の活動について報告があった。

②広報委員会の活動について報告があった。

③第36回学術集会（実行委員長：津本優子先生）開催進捗状況について報告があった。

#### (2) 第2回運営委員会会議

令和6年3月16日（土）島根大学医学部

①令和5年度事業報告

②令和5年度会計報告、監査報告

③令和6年度事業計画案

④令和6年度予算案

⑤今後の学術集会および今後の予定

⑥選挙管理委員会の設置

⑦総会開催方法の変更

⑧第37回学術集会開催概要

#### 2) 学術委員会

(1) 第1回学術委員会：メール審議

第2回学術委員会：11月6日Web会議

(2) 学術セミナーの開催

開催方法：対面・Webハイブリッド

開催日：令和6年3月17日（日）

テーマ：現象学入門ー理論的背景から分析方法までー

講師：西村ユミ先生（東京都立大学）

#### 3) 広報委員会

(1) 令和5年度ニュース・レターNo.31を9月に発行し、住所不明者を除く会員779名に送付した。

## 令和5年度会計報告

### 【収入の部】

(単位：円)

費目	令和5年度予算	令和5年度実績	差異
前年度繰越金	700,485	700,485	0
地方会補助金	413,500	395,000	-18,500
学術集会準備金返金	0	0	0
雑収入	6	7	1
合計	1,113,991	1,095,492	-18,499

### 【支出の部】

(単位：円)

費目	令和5年度予算	令和5年度実績	差異
事業費	30,000	45,100	15,100
各種委員会活動費	35,000	31,068	-3,932
学術集会支援金	150,000	150,000	0
学術集会準備金	300,000	300,000	0
学術セミナー支援金	0	16,800	16,800
印刷費	110,000	114,201	4,201
郵送費	115,000	105,165	-9,835
人件費	40,000	20,000	-20,000
事務費	20,000	1,300	-18,700
次年度への繰越金	313,991	311,858	-2,133
合計	1,113,991	1,095,492	-18,499

## 委員会より

### 【学術委員会】

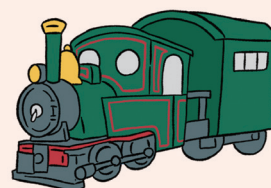
令和5年度に開催された学術セミナー「現象学入門」は、石橋照子氏（島根県立大学）実行委員長のもと成功を収めました。続く令和6年度には、陶山啓子氏（愛媛大学）が実行委員長を務める「臨床のリサーチクエスチョンを看護研究にどうつなげるかー実践と研究の融合ー」のセミナーが企画されています。会員の皆様には、この機会を通じて研究活動をさらに発展させ、実践と研究の有意義な融合を目指していただきたいと思います。

(委員長：市原多香子)

### 【広報委員会】

令和6年、ニュースレターNo.32をお届けします。昨年度は、3大会ぶりに対面での学術集会が開催され、会員の皆さまと直接に会うことができました。広報では今後も地道に会員の皆様へ必要な情報を発信していきます。

(委員長：佐伯由香)



## ●令和6年度事業計画●

1. 次期運営委員選挙
  - ・第2回：令和7年3月8日 運営委員会終了後～
  - (2) 令和6年度ニュース・レター No.32 を9月に発行、会員約800名に送付する。
2. 委員会活動
  - 1) 運営委員会
    - (1) 第1回
      - 日 時：令和6年8月24日(土) 14:30～15:30
      - 方 法：ハイブリッド形式
    - (2) 第2回
      - 日 時：令和7年3月8日(土) 時間未定
      - 方 法：聖カタリナ大学 松山市駅キャンパス
  - 2) 学術委員会
    - (1) 委員会開催
      - ・第1回：令和6年8月24日 運営委員会終了後～
      - ・第2回：令和7年3月8日 運営委員会終了後～
    - (2) 学術セミナー開催：令和7年3月9日(日)
  - 3) 広報委員会
    - (1) 委員会開催
      - ・第1回：令和6年8月24日 運営委員会終了後～
3. 令和6年度総会開催
  - 日 時：令和7年3月10日～令和7年3月20日
  - 場 所：会員情報管理システムを利用した議決権行使書による決議とする。
4. 第37回学術集会開催
  - 1) 実行委員長：西田佳世先生（聖カタリナ大学）
  - 2) 開催時期：令和7年3月9日(日)
  - 3) 開催場所：聖カタリナ大学 松山市駅キャンパス
  - 4) テーマ：看護のチカラ2025  
—ひと・まち・いのちを繋ぐ—

## ●令和6年度予算●

### 【収入の部】

(単位：円)

費 目	令和5年度予算	令和5年度実績	令和6年度予算案
前年度繰越金	700,485	700,485	311,858
地方会補助金	413,500	395,000	389,500
学術集会準備金返金	0	0	300,000
オンライン選挙事務費用	0	0	420,000
雑収入	6	7	6
合 計	1,113,991	1,095,492	1,421,364

## ●令和6年度予算●

### 【支出の部】

(単位：円)

費 目	令和5年度予算	令和5年度実績	令和6年度予算案
事業費	30,000	45,100	30,000
各種委員会活動費	35,000	31,068	30,000
学術集会支援金	150,000	150,000	150,000
学術集会準備金	300,000	300,000	300,000
学術セミナー支援金	0	16,800	0
印刷費	110,000	114,201	110,000
郵送費	115,000	105,165	115,000
人件費	40,000	20,000	30,000
事務費	20,000	1,300	10,000
オンライン選挙費用	0	0	420,000
次年度への繰越金	313,991	311,858	226,364
合 計	1,113,991	1,095,492	1,421,364



## 一般社団法人日本看護研究学会中国・四国地方会第37回学術集会のご案内

第37回学術集会は2025年3月9日(日)に愛媛県松山市中心部にある聖カタリナ大学松山市駅キャンパスにおいて開催いたします。2025年という節目の年に開催させていただく機会をいただきましたので、これからの時代に繋がる看護の力をみなさんで考えることができる学術集会にしたいと考えております。

テーマのチカラには、「知から」、「地から」、そして「力」の意味を込めて、本学術集会が参加者の皆様にとって、人を繋ぐ、地域を繋ぐ、そして命を繋ぐ「看護のチカラ」を考える機会になるようにとの願いを込め、身近な内容でワクワクするプログラムを準備いたしました。

多くの演題発表を通して「看護のチカラ」の意見交換ができるように、演題登録の際の基準を「筆頭者は学会員であること」といたします。どうぞ日頃の看護をご発表ください。お一人お一人が「看護のチカラ」を見つけ、楽しんでいただける学術集会を目指します。

開催地の松山には、3000年の歴史がある道後温泉、日本100名城の1つである松山城が市内中心部にあり、城下町を坊ちゃん列車が汽笛を鳴らし走っています。学術集会の会場から徒歩1分の松山市駅からは、人気者の白くまピースに会えると動物園など観光地への移動も便利です。学術集会前後は、是非、城下町松山を堪能してください。本学のスクールモットーである「隣人を大切に」の精神でおもてなしいたします。多くの地元企業様のご協力もいただいております。

ご多忙の時期とは存じますが、どうぞ松山へ足をお運びください。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

実行委員長 西田佳世(聖カタリナ大学看護学部)

### ■プログラム

テーマ：看護のチカラ2025 一ひと・まち・いのちを繋ぐ

会期：2025年3月9日(日) 9:00～16:00 対面開催のみ

会場：聖カタリナ大学 松山市駅キャンパス (愛媛県松山市永代町10番地1)

※北条キャンパスと間違えないようにご注意ください。

#### ○特別講演

テーマ：心理学と看護における対人援助 ―『共支の概念』―

講師：坂原明氏(聖カタリナ大学 学長)

#### ○教育講演1

テーマ：看護情報の利活用による看護の未来

講師：岡田みずほ氏(岩手県立大学看護学部 教授)

#### ○教育講演2

テーマ：臨床知と臨床判断

講師：内藤知佐子氏(愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター 助教)

#### ○学術セミナー

テーマ：臨床のリーサークエスチョンを看護研究にどうつなげるか―実践と研究の融合―

講師：折山早苗氏(広島大学大学院医系科学研究科保健科学プログラム 教授)

#### ○一般演題、学生演題

演題募集期間 2024年10月1日(火)～2024年11月29日(金)

事前参加登録期間 2024年10月1日(火)～2025年1月31日(金)

申込方法 詳細はホームページをご覧ください。 日本看護研究学会 → 地方会のご案内 → 中国・四国地方会 → 学術集会



聖カタリナ大学  
マスコットキャラクター  
「カタにゃん」

### (社) 日本看護研究学会中国・四国地方会第37回学術集会事務局

聖カタリナ大学看護学部 担当：西田・三木

〒790-0022 愛媛県松山市永代町10番地1 聖カタリナ大学松山市駅キャンパス内

E-mail: jsnr-37@catherine.ac.jp

発行 〒723-0053 広島県三原市学園町1番1号 県立広島大学保健福祉学部保健福祉学科 看護学コース内  
一般社団法人 日本看護研究学会 中国・四国地方会事務局  
発行責任者 会長/岡田淳子 広報委員長/佐伯由香